

# 水害について知っておこう

## ▶ 内水氾濫と外水氾濫

洪水には、降った雨が水路などで排水しきれなくなるにより起こる氾濫(内水氾濫)と、川の堤防が壊れたり、水があふれたりして発生する氾濫(外水氾濫)があります。まずは、洪水の発生するしくみを理解して、避難場所等まで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。



通常

内水氾濫の発生

外水氾濫の発生

通常、降った雨は水路などを通じて河川へ排水されています。

大雨が降り、排水能力が雨量に追い付かなかった場合に、内水氾濫が起こり始めます。

さらに雨が激しく降ると、外水氾濫(洪水)の危険性が高まります。

その場で雨が降っていなくても、川の上流で降った大雨により、下流で氾濫が発生することがあります。

## ▶ 家屋倒壊等氾濫想定区域

洪水時には氾濫流や河岸侵食により、家屋の倒壊・流失をもたらすような激しい流れが発生するおそれがある、堤防沿いの地域を「家屋倒壊等氾濫想定区域」としています。これらの区域では、自宅等が倒壊するおそれがあることから、浸水区域外への立退き避難※が必要です。 ※立退き避難はP11を参照

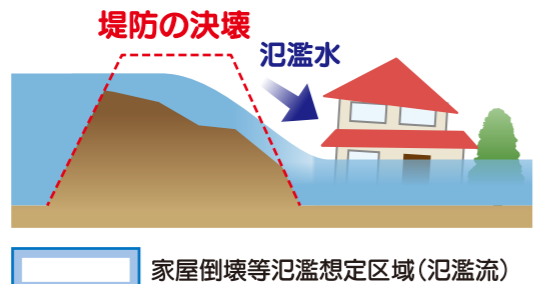
これらの区域では確実に  
早めの立退き避難をしてください

家屋倒壊等氾濫想定区域  
(氾濫流)

家屋倒壊等氾濫想定区域  
(河岸侵食)

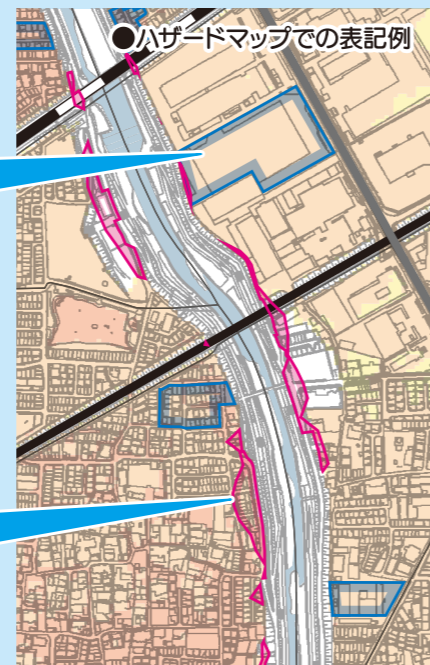
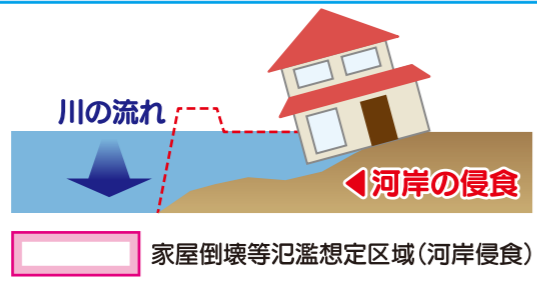
### 氾濫流とは…

堤防が壊れ、河川から流れ込む水の力により、激しい流れが起きることを「氾濫流」といいます。氾濫流により、一般的な木造住宅が、倒壊・流失するおそれがあります。



### 河岸侵食とは…

川の流れにより河岸が削られる現象を「河岸侵食」といいます。河岸侵食により、侵食範囲にある家屋が倒壊するおそれがあります。



## ▶ 雨の強さ、降り方と災害の危険性等

	やや強い雨 10~20mm未満	強い雨 20~30mm未満	激しい雨 30~50mm未満	非常に激しい雨 50~80mm未満	猛烈な雨 80mm以上
1時間雨量と予報用語					
人の受けるイメージ	●ザーザーと降る。	●どしゃ降り。	●バケツをひっくり返したように降る。	●滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	●息苦しくなるような圧迫感がある。 ●恐怖を感じる。
人への影響と屋外の様子	●地面からはね返りで足もとがぬれる。	●傘をさしていてもぬれる。 ●車の場合、ワイパーを速くしても見づらい。	●道路が川のようになる。	●傘はまったく役に立たなくなる。 ●水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	
災害の危険性	●この程度の雨でも、長く続くと注意が必要。	●側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。 ●小規模のがけ崩れのおそれがある。	●山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難が必要。	●土石流が起こりやすい。 ●多くの災害が発生する。	●雨による大規模な災害の発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要。

表に示した雨量と同じであっても、降り始めからの総雨量の違いや、地形や地質等の違いによって被害の様子は異なることがあります。この表では、ある雨量が観測された際に通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。

## ▶ 洪水時の避難情報発令の目安

河川の水位が上昇して洪水のおそれがあるとき、避難情報を発令します。各避難情報は、各河川で定められた水位の基準に達するなどの状況から判断し、発令します。

基準水位	避難情報の種類等	河川名			水位観測所(局名)
		曾我川	飛鳥川	寺川	
氾濫の発生	緊急安全確保	西但馬	東但馬	結崎	水位観測所1の基準水位
氾濫危険水位	避難指示	6.00m	3.20m	4.20m	
避難判断水位	高齢者等避難	5.30m	2.70m	3.80m	
氾濫注意水位	水防団が出動する目安になる水位	3.80m	2.70m	3.80m	
水防団待機水位	水防団が準備する目安になる水位	2.90m	1.90m	2.40m	
ふだんの水位					